

時空を超えた日中友好

中国伝媒大学学生代表

見学日時：2019年12月2日（月）12:00-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要

12月2日の正午、訪日団一行は日比谷松本楼に到着し、スタッフの案内の下で宋慶齡女史が使用していたピアノや日中交流のエピソードに関する史料等を見学した。その後、二階の宴会場で昼食となり、食事の後は梅屋庄吉氏の曾孫にあたる方から梅屋庄吉氏と孫中山氏の海や時間を越えた友情のエピソードの紹介があり、私たちは遙か昔の重要な、また発展を続ける日中の友好関係について思いを馳せ、また思いを巡らせた。



宋慶齡女史が使用していたピアノ



日中友好に関する史料



二階の宴会場からの景色



松本楼のプレート

なぜですか？

問：松本楼には日中の友好交流に関するどのようなエピソードがあるのか？

答：松本楼にちなんだ最も感動的なエピソードは、孫中山氏と梅屋庄吉氏に関するものである。孫中山氏と志や理想を同じくした梅屋庄吉氏は孫中山氏の革命事業を全力で支援し、孫中山氏の死去後は自身の財産を使い孫中山氏の銅像を作り中国へ贈呈し、孫中山氏を追想した。両氏はかつて松本楼を訪れており、宋慶齡女史が使用していたピアノもまたここに陳列されるなど、松本楼は当時の感動的な友情の舞台であった。また、2008年には当時の胡錦濤国家主席が当時の福田康夫首相と共にこれらの史料を閲覧するなど日中の友好関係の発展を共に推し進めた。松本楼は日中の友好交流と深い友情における文化的ランドマークとなっている。

問：梅屋庄吉氏はなぜ全財産を使い中国の革命事業を支援したのか？

答：梅屋庄吉氏の曾孫の方からこの問題に対する回答があった。日中両国は長い歴史を有していると共に日本文化は中国の影響を強く受けており、両国は実の兄弟に例えられ、日本は中国に対して敬いや親しみの気持ちを持っている。そして近代において中国の国力が低下した際、日本の有志は兄弟の心を示すため中国を救う決心をした。そうした中、梅屋庄吉氏は孫中山氏と兄弟のように意気投合し、二重の「兄弟の心」により「君は兵を挙げたまえ。我は財を挙げて支援す」との感動的な革命の友情が生まれたのである。

問：孫中山氏と宋慶齡女史の馴れ初めは？

答：孫中山氏と宋慶齡女史の愛情は梅屋庄吉氏一家による紹介と仲立ちから始まった。梅屋庄吉氏とその妻のトク夫人は孫中山氏の革命事業の支援以外に、孫中山氏と宋慶齡女史の仲人の役割も担った。正に梅屋夫妻の仲立ちにより革命時期の愛情が生まれ、人々の賞賛を受ける模範的な愛情となったのである。

問：一つの感情の消費期限はどれ程の長さか？

答：孫中山氏と梅屋庄吉氏の友情は両氏の別れや死去によって止まることはない。両氏の生前においてはその友情は時間や距離といったものに負けることなく、両氏の死後においては当時の友情はその家族によって受け継がれている。今日においても両氏の子孫は交流を続けており、当時の友情は距離や時間の垣根を越え、今後も受け継がれていく。

感想

真に心のコもった思いというものは常に人を感動させる力を持つ。この場合の感動は当事者自身の心情が原因のものではなく、時間が経過しても事情を知る全ての人を感動させることが原因のものである。梅屋庄吉、孫中山両氏の友情のエピソードの最も感動的なところは、それが時間を越えて現在にも受け継がれている点である。日中両国にはかつて、そして現在においてもこうした感動的な友情が存在する。孫中山氏と梅屋庄吉氏の友情は二人が意気投合したことそして二人の共通の認識がきっかけとなっている。日中両国には多くの共通点が存在し、それら共通点の一つひとつが友情を育んでいる。確かに、日中両国には戦争も存在し、民衆の間には隔たりが存在したこともあったが、一衣帯水の両国間には依然として多くの共通点や友好交流のエピソードが存在する。今回の交流においても日中双方の友好交流への期待や小異を残して大同を求める姿勢が感じられるなど、両国の友好交流の先行きは明るいと言える。日本の大学生やホストファミリーとの交流においてもまた多くの共通点を発見したことで友情が生まれた。国の交わりは民の親しきにある。両国の友情は集う中で発展を続け、時間が経つにつれより活力を増していくと確信している。